熊本地域医療センターだより

通算178号

2020 3月号

院長　清住雄昭　　令和２年(2020年)　３月発行

熊本地域医療センター電話番号(代表) 096-363-3311　FAX 096-362-0222

熊本地域医療センター 理念

かかってよかった。
紹介してよかった。
働いてよかった。
そんな病院をめざします。

contents

本日のお勧め…… P2
熊本市公的病院等地域連携協議会(G8)に参加して　P2
学会発表一覧…… P2
2019年度緩和ケアに関する研修会の報告 … P3
「看護業務の効率化 先進事例アワード2019」
最優秀賞を受賞して …… P4

退任のご挨拶

院長　清住　雄昭

昭和62年に入職しました。パルコが開店した頃で閉店と共に定年を迎えます（もっとも若者向け店舗で殆ど立ち入ったことはありませんが)。当時開院から６年あまり上り坂の時代でした。病診連携にいち早く取り組み会員の先生方からの紹介はひっきりなしで、常にほぼ満床。生理、放射線、内視鏡検査、手術件数は右肩上がり。そんな中、駆け出しの消化器内科医として相良先生、山辺先生等からご指導を受け多くを学ばせて頂きました。特に胆膵内視鏡では強面ながら温かい(?)明石先生に懇切なご指導をいただき、検査に（MRCP 普及前で診断にも欠かせない手技でした)、治療に（夜も休日も）多くの症例を積み重ねてまいりました（15000例程かと)。閉塞性黄疸、化膿性胆管炎等に胆管ドレナージが上手くいきますと劇的な臨床効果が得られる一方、重症膵炎、穿孔等合併症も重篤で、外科の八木先生、有田先生、他、各科のサポートにより何度も窮地を脱してまいりました、感謝あるのみです。

また各部署のスタッフにも恵まれ、仕事に遊びに呑み会に今流にいう働きやすい職場でして、居つきまして今日に至っております。月日を重ねますと病院の運営等にも責任が増すのは当然ですが、院長職とは全く意外、想定外で（昔を知る方には笑止かと)、新たな取り組み等は残せませんでしたが、幸い大きなトラブルもなく（いわゆる）大過なく引き継げるかと。

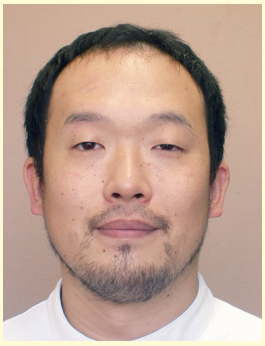
これも病院スタッフはもとより、時には叱責を頂きつつも御指導、御支援頂いた会員の先生方のおかげと、厚く感謝申し上げます。長きにわたり誠にありがとうございました。

市内の公的病院が全て新築、グレードアップするなか、病床稼働率等、厳しい状況が続いております。４月からの新体制のもと職員一丸となって先生方のお役に立てる病院をめざして参ります。

熊本地域医療センターに一層の御支援を切にお願い申し上げます。

附記　当面、顧問といった立場で診療の一部、また先生方との連携等でお役に立てたらと。ご相談、ご依頼、ご意見、ご叱責等、引き続き宜しくお願い致します。

本日のお勧め



呼吸器内科
津村　真介

改めまして自己紹介させていただきます。
10月に開催されました病診連携の会にてご紹介いただきました呼吸器内科の津村です。2002年熊本大学卒です。専門分野は喘息、アレルギー、気管支鏡です。
中等症以上の喘息診療は症状だけでなく採血、生理検査、運動機能など様々な情報を集約しながら数年間症例を丁寧に見つめていくことで真の重症度、最適な治療強度がわかると考えています。そのため慢性期でもその他の内服などは紹介元の先生にお願いしつつ、２～３ヶ月毎には受診を継続していただくスタイルをとらせていただいております。

気管支鏡についても、当院では診断から気道インターベンションにいたるまで昔から一子相伝に近いかたちで継承されており、施設としても経験、技術ともに国内有数であると自負しております。
私が喘息と気管支鏡、この両者を得意としていたことから気管支喘息に対する内視鏡を用いた新しい治療、気管支サーモプラスティを県内では唯一手がけております。 治療の詳細についての説明だけでもお引き受けしますので、お悩みの患者さんがいらっしゃいましたらぜひご紹介ください。
また、成人の食物アレルギーなどにも対応しております。 現在は食物アレルギーへの対応や、複数のアレルギー疾患を持つ患者さんの総合マネジメントなどが主体ですが、当院は本年度からアレルギー診療センターを立ち上げており、今後もさらなる診療内容の充実に努めてきたいと考えております。
もちろん呼吸器科全体としても基本的にお断りすることなく、あらゆる患者さんに対応させていただいております。肺癌の診断から緩和ケアまで一貫して診療ができるのは当院ならではの特色と考えますし、高齢の肺炎患者さんもたくさんご紹介いただいております。
今後共ご支援、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

熊本市公的病院等地域連携協議会（G８）に参加して

地域医療連携室　**本田　龍一**

令和２年２月17日、熊本大学病院山崎記念館にて熊本市公的病院等地域連携協議会が開催されました。
今回は、「身寄りのいない患者支援の取り組みや課題」をテーマに、現場で支援に携わられているMSWや看護師の方々を中心に意見交換が行われました。ご存じの方も多いかもしれませんが、昨年、厚生労働省から【身寄りがない人の入院及び医療に係る意思決定が困難な人への支援に関するガイドライン】が出されており、今や身寄りのない方への支援は医療機関にとって大きな課題の一つとなっています。
家族と絶縁状態にある方、独居高齢者、ホームレスなど、ただ一言に身寄りがないといってもその要因は十人十色で、患者さんの社会的背景に則った臨機応変な支援が求められます。またこういった患者さんの支援は、倫理的問題を含め、院内だけで完結できるケースは少なく、行政等（生活保護課や地域包括支援センターなど）との連携が不可欠です。
地域医療連携室におきましても、これまで以上に連携を強化し、今後ますます増える身寄りのない方々が安心して医療機関を受診できるような環境作りに努めてまいります。

令和元年度　9月～12月　学会発表一覧

ご紹介していただいた症例は、積極的に学会発表

日	氏名	学会名
令和元年9月5日	柏原　光介	第83回 日本呼吸器学会 九州支部秋季学術集会
令和元年9月6日	津村　真介	第83回 日本呼吸器学会 九州支部秋季学術集会
令和元年10月3日	岡部　弘尚	第55回 日本胆道学会学術集会
令和元年10月6日	岡部　弘尚	日本超音波医学会 第29回九州地方会学術集会
令和元年10月24日	笹原　誉之	第57回 日本糖尿病学会九州地方会
令和元年10月24日	富安　真二朗	第57回 日本癌治療学会学術集会
令和元年11月8日	岩下　博文	第114回 日本消化器病学会 九州支部例会
令和元年11月21日	小森　宏之	JDDW 2019（第27回日本消化器関連学会週間）
令和元年11月22日	富安　真二朗	JDDW 2019（第27回日本消化器関連学会週間）
令和元年12月5日	富安　真二朗	第32回 日本内視鏡外科学会総会
令和元年12月6日	岡部　弘尚	第32回 日本内視鏡外科学会総会
令和元年12月6日	柏原　光介	第60回 日本肺癌学会学術集会
令和元年12月12日	岡部　弘尚	第43回 日本肝臓学会西部会・教育講演会

令和元年度　9月～12月　学会発表一覧

ご紹介していただいた症例は、積極的に学会発表させていただきました。今後とも、患者さんのご紹介お願いいたします。

日	氏名	学会名	発表テーマ
令和元年9月5日	柏原　光介	第83回 日本呼吸器学会 九州支部秋季学術集会	免疫チェックポイント阻害剤の再投与を行った進行非小細胞肺癌6例の検討
令和元年9月6日	津村　真介	第83回 日本呼吸器学会 九州支部秋季学術集会	気管支サーモプラスティの確かな有用性と新たなメカニズムへの期待
令和元年10月3日	岡部　弘尚	第55回 日本胆道学会学術集会	肝外胆管癌Ｒ1切除例の長期成績の検討
令和元年10月6日	岡部　弘尚	日本超音波医学会 第29回九州地方会学術集会	腸閉塞手術における腹部エコーによる術前癒着マッピングの有用性
令和元年10月24日	笹原　誉之	第57回 日本糖尿病学会九州地方会	悪性リンパ腫の診断に苦慮した前立腺癌術後の初発2型高齢糖尿病の一例
令和元年10月24日	富安　真二朗	第57回 日本癌治療学会学術集会	術前化学療法後切除した遠隔転移・局所進行を伴う膵癌の予後因子
令和元年11月8日	岩下　博文	第114回 日本消化器病学会 九州支部例会	胃癌術前検査における大腸内視鏡検査前処置後に低ナトリウム血症によると思われる意識障害を来した1例
令和元年11月21日	小森　宏之	JDDW 2019（第27回日本消化器関連学会週間）	高齢者膵頭部癌患者の治療選択
令和元年11月22日	富安　真二朗	JDDW 2019（第27回日本消化器関連学会週間）	胆道癌に対する亜全胃膵頭十二指腸切除（SSPPD）の術後合併症と、予後との関係と術後合併症のリスク因子
令和元年12月5日	富安　真二朗	第32回 日本内視鏡外科学会総会	急性胆嚢炎における危険回避手技（Bailout procedure）のリスク因子
令和元年12月6日	岡部　弘尚	第32回 日本内視鏡外科学会総会	膵体尾部切除術における術後膵液ろうに関わる因子の検討
令和元年12月6日	柏原　光介	第60回 日本肺癌学会学術集会	癌性胸膜炎を合併した EGFR 遺伝子変異陽性未治療肺腺癌に対する胸膜癒着術の意義
令和元年12月12日	岡部　弘尚	第43回 日本肝臓学会西部会・教育講演会	肝切除後肝再生に関わる因子の検討

「2019年度緩和ケアに関する研修会（第74回熊本緩和ケアカンファレンス）」の報告

緩和ケア科　安部　英治

去る2020年１月31日（金）18時30分から熊本地域医療センター新館６階ホールで緩和ケアに関する研修会を開催しました。院内外から合わせて49名の方にご参加いただきました。今回は当院主催で、かつ、第74回熊本緩和ケアカンファレンスとして熊本県がん診療連携協議会緩和ケア部会・熊本大学医学部附属病院緩和ケアセンター共催とさせていただきました。当院スタッフ並びに緩和ケア部会・緩和ケアセンタースタッフ一同に厚く御礼申し上げます。

今回は、『終末期患者の身体抑制～緩和ケア病棟からの情報発信～』と題し、被殻出血を発症した担がん患者の症例を提示し終末期患者の身体抑制についてディスカッションしました。この患者さんは被殻出血急性期を乗り切るために緩和ケア病棟でも最小限の身体抑制を継続しましたが、その妥当性について日々スタッフ間でディスカッションを重ねました。結果的には無事に急性期を乗り切り自宅近くで家族が足繁く通院できる緩和ケア病棟に連携・転院しそののち３ヶ月を過ごしていただけました。お伝えしたかったことは、『状況によって変わっていく患者さんにとっての『最善』とは何か？を常に問いながら患者さんと接していくことが大切である』という当たり前のことです。

質疑応答では各施設からそこまで踏み込んだ意見交換はありませんでしたが、カンファレンス終了後に他施設緩和ケア病棟スタッフと当院緩和ケア病棟スタッフが意見交換しており、どの施設でも悩まれているのだと伺い知り得ました。

またアンケートでは、緩和ケア病棟をはじめ急性期病棟や集中治療室のスタッフからも多くの貴重な賛否両論をいただきました。以下少しだけ紹介させていただきます。『当院では身体抑制はしていません（中略）自己抜去する可能性があることを重々ご家族へ説明しています（中略）身体抑制は現在はどこまで行う必要があるのか・・・。』『常にこれでいいのかという感性を大事にしていきます』『緩和ケア病棟は身体拘束をしないのかと考えておりましたが、本人の意思が十分に確認できない中でスタッフが悩みながら丁寧に診療していることを知りました』『集中治療室で勤務しています。生命維持のために必要な身体抑制を行っていましたが、本当に必要な治療なのか、患者さんにとって最善なことなのか、身体抑制は家族がどう感じているのか、など色々な面から医療者が考え最善な方法を選択していかなければと改めて感じました。』

参加していただいた院内外の皆様の今後の臨床に少しでもお力になれたらと考えています。今後とも今回のような『答えが出ないけど悩んでいる』テーマにも取り組んでいこうと考えています。次回もまた皆様のご参加のほどよろしくお願い申し上げます。

させていただきました。今後とも、患者さんのご紹介お願いいたします。

発表テーマ
免疫チェックポイント阻害剤の再投与を行った進行非小細胞肺癌6例の検討
気管支サーモプラスティの確かな有用性と新たなメカニズムへの期待
肝外胆管癌Ｒ１切除例の長期成績の検討
腸閉塞手術における腹部エコーによる術前癒着マッピングの有用性
悪性リンパ腫の診断に苦慮した前立腺癌術後の初発2型高齢糖尿病の一例
術前化学療法後切除した遠隔転移・局所進行を伴う膵癌の予後因子
胃癌術前検査における大腸内視鏡検査前処置後に低ナトリウム血症によると思われる意識障害を来した1例
高齢者膵頭部癌患者の治療選択
胆道癌に対する亜全胃膵頭十二指腸切除（SSPPD）の術後合併症と、予後との関係と術後合併症のリスク因子
急性胆嚢炎における危険回避手技（Bailout procedure）のリスク因子
膵体尾部切除術における術後膵液ろうに関わる因子の検討
癌性胸膜炎を合併した EGFR 遺伝子変異陽性未治療肺腺癌に対する胸膜癒着術の意義
肝切除後肝再生に関わる因子の検討

「看護業務の効率化　先進事例アワード2019」最優秀賞を受賞して

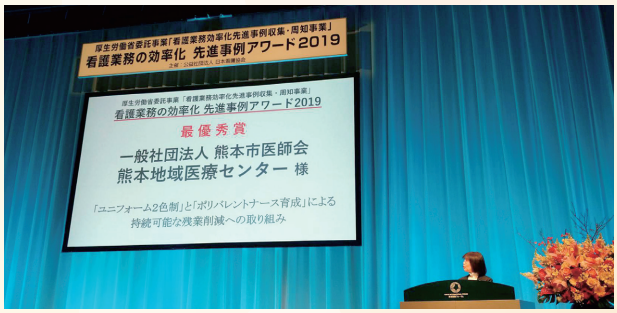
看護副部長　下田　知佳

「看護業務の効率化先進事例アワード2019」において、“「ユニフォーム２色制」と「ポリバレントナース育成」による持続可能な残業削減への取り組み”が最優秀賞を受賞しました。この事業は、日本看護協会が厚生労働省の委託事業として主催し、看護職がより専門性を発揮できる働き方の推進や生産性の向上、看護サービスの質の向上を図るために、汎用性の高い効果のある取り組みを周知していくことを目的として実施されました。

2020年１月15日東京国際フォーラムにて受賞施設の表彰式・事例報告会が行われました。式典はホールが500名に及ぶ満員の観客で埋め尽くされました。受賞式では、プレゼンターの長野保健医療大学副学長・看護学部長井部俊子氏より「ローテクだけど汎用性が高く、効果が絶大」との講評が述べられ、大平看護部長の巧みな10分間スピーチの事例報告では、会場から大きな拍手をいただきました。その反響の高さは、事例報告後のパネルディスカッションでも、パネル前に立ったと同時に人だかりができ、沢山の方から矢継ぎ早に質問を受ける盛況ぶりでした。

受賞したこの取り組みは、「超過勤務が多い」「実践力を高めたい」という理由で職場を去っていく、離職率20％という状況を打破したいという願いから始まりました。私たちは、この取り組みを『３本の矢』と称しています。柱の１本目、「ユニフォーム２色制」は視覚的な効果により、定時で仕事を終えるタイムマネジメントの意識が高まりました。２本目は、急な欠勤や緊急入院等の業務過多に対応できる「ポリバレントナースの育成」で残業削減を図りました。所属単位を越えた支援ができるナースを育成するための教育プログラム制度を作り、余裕のある部署から支援できる応援体制を構築しました。この取り組みは更に先読みの看護～「一つ屋根の下にいる患者さんを皆で看る」戦略として進化し続けています。最後の３本目は、始業時間前労働削減のため、「walking conference」を導入し、効果的な引継ぎを可能にしました。これにより、残業時間の大幅な削減となり定刻出退勤が当たり前に変化しています。これらの『３本の矢』の取り組みの成果として、離職率9.9％（2018年度）を実現したことは、大きな喜びとなりました。

私たち看護部には、“働いてよかった”“働き続けたい”と思える看護部組織になる、人材(財)豊富な組織になる、というビジョンがあります。病院理念の具現化に向け、ベクトルを合わせ進んできたチームワークがこの成果を導いたと思います。更にその背後にあるものは、看護師一人ひとりの意識の変化と行動であり、それを支える現場の看護管理者のマネジメント力でした。今回の受賞は、その取り組みが社会的に評価を得る機会となり、自分の組織を誇りに思える出来事となりました。各メディアから取材協力の依頼が舞い込んでくる現状ですが、これに甘んじることなく、これまでの取り組みをさらに強靭かつ持続可能にし、「働き続けたいと思える組織になるために」看護部職員ベクトルをひとつに合わせ邁進していきます。



熊本地域医療センター勉強会中止のお知らせ

3月予定しておりました勉強会は、新型コロナウイルスの影響により中止いたします。

また、4月以降の開催も未定となっております。今後の状況を見ながら、当熊本地域医療センターだよりや医師会週報にて随時お知らせいたします。

熊本地域医療センター

■医師へ直接紹介される方はこちら　☎096-363-3311（代表）

■何科に紹介するか迷っている場合はこちら　（平日9:00~17:00）
※ベテラン看護師が対応いたします！　☎096-372-0600

■画像診断・内視鏡などの検査予約はこちら（連携室）　☎096-366-1323

編集後記

Y　⇒　新型コロナウイルス騒ぎで、状況が日々変化するなかでの発行となりました。多数の低体温症がでた熊本城マラソンに来てくれた設楽悠太選手は、疲れがとれず東京マラソンでは16位に終わり、ちょっと残念でした。学会・送別会中止・不要不急の外出自粛と世の中全体が辛いところです。春になって騒ぎが終息することを願っています。

H　⇒　新型コロナウイルスの影響により、様々な行事が中止となり残念です。しかし、新年度に向け気持ちを切り替えて精進してまいりますので、よろしくお願いいたします。皆さまも、時節柄どうぞご自愛くださいますようお願い申し上げます。